

2017年6月20日発表

報道関係者各位

株式会社日本レジストリサービス(JPRS)

## インターネット教育に関する調査で 教諭の4割弱から「情報教育」の教材不足の声

- JPRS では教育現場支援のため、教材の無償配布を実施 -

ドメイン名の登録管理を行う株式会社日本レジストリサービス(以下 JPRS、本社:東京都千代田区、代表取締役社長 東田幸樹)は、中学校と高校の「生徒」と「教諭」それぞれ 400 名(計 800 名)を対象に「インターネット教育に関する実態調査」を実施し、この度、その調査結果をまとめました。

調査の結果、デジタルネイティブ世代である中学校・高校の生徒で URL やドメイン名を意識している人が少ないことが明らかになりました。また、インターネットの基本的な仕組みなどを教える情報教育の担当教諭への調査では、授業に自信を持っていない教諭が一定数存在することが分かりました。その要因として、情報教育に使用する教材が不足していることなどが考えられます。

インターネット上の住所と言われるドメイン名は、インターネットには欠かせないものです。日ごろから、ドメイン名や URL を確認することは、昨今問題となっているフィッシング詐欺への有効な対策の一つとなります。JPRS では、ドメイン名やインターネットの仕組みをマンガで学べる小冊子『ポン太のネットの大冒険』を教育機関へ無償配布しており、本年は7月31日(月)まで受け付けています。

### 本調査のポイント

#### ■ 生徒の URL に対する意識について

##### ～ インターネット利用時に、URL を意識しない生徒は約7割 ～

インターネット上に数限りなく存在する Web サイト。そこでは「URL (Uniform Resource Locator)」と呼ばれるインターネット上の住所(文字列)が重要な役割を果たします。しかし、スマートフォンでインターネットに触れることが大半の中学生・高校生にとって、URL への意識が薄れつつあることが分かりました。生徒に対し、「インターネットを利用する際に URL を意識するか」と聞いたところ、「スマートフォンや携帯電話の利用時」は 75.5%が意識せず、「デスクトップパソコン・ノートパソコンの利用時」でも 69.8%が意識していないことが明らかになりました。また、「URL の.jp が日本を表すことを知っているか」との問いには「知らなかった」と回答した生徒は 41.5%に達しました。このような結果となった要因としては、スマートフォンなどのブラウザーでは URL が非表示になるなど、意識する機会が失われていることなどが考えられます。

【4 ページ目の Q1.Q2.Q3】

#### ■ インターネットの仕組みの授業について

##### ～ ドメイン名を授業で教えていない教諭が3割超 ～

教諭に対する調査では、「情報教育」に対する課題を抱えている教諭が少なからず存在することも分かりました。中学校・高校で「情報教育」を担当する教諭 400 名へのアンケートでは、教諭の 35.6%がメールアドレスや Web サイトの URL を構成する「ドメイン名は授業で教えていない」と回答し、また、18.5%は「インターネットの仕組みを教えていない」とも回答しました。

【5 ページ目の Q5.Q6】

■「情報教育」に関する教材について

～教材に満足していない教諭が約4割～

過去5年以内に情報教育の授業を担当したことがある教諭に、授業で使用する教材への満足度について聞いたところ、36.8%が「満足していない」と回答しています。学校種別で見ると、「教材に満足していない」と回答した割合は“高校の教諭”が31.5%であったのに対し、“中学校の教諭”は42.0%と10.5ポイント高く、より初歩的な内容を教える中学校での情報教育に使用する教材が不足しているという実態が明らかになりました。【5ページ目のQ.7】

■「情報教育」担当教諭の授業への自信について

～「自信を持って教えられている」教諭は4割以下～

別の質問では、情報教育を担当している教諭の抱える不安も見えてきました。調査時点で「情報教育」を担当している教諭276名に対し、「授業を行うにあたり、自信を持って授業を行っているか」を聞いたところ、「自信を持って教えられている」と回答した教諭はわずか38.4%という結果となりました。これは、「情報教育」が中学校では技術・家庭科の一科目、高校では「情報科」として必修教科となっているにもかかわらず、専任ではない教諭が担当することが多く、前述の通り情報教育の教材が不足していることが一つの要因だと考えられます。

【6ページ目のQ8.Q9.Q10】

調 査 概 要

調査タイトル： インターネット教育に関する実態調査  
 調査対象： 中学校・高校で「情報」を担当している・していた(5年以内)教諭 400名  
 中学校・高校の生徒 400名  
 有効回答数： 800サンプル  
 調査期間： 2017年5月20日～5月22日  
 調査方法： インターネット調査  
 調査会社： 株式会社クロス・マーケティング

中学校・高校・高等専門学校向けの教材

株式会社日本レジストリサービスでは、インターネット教育の支援活動の一環として、全国の中学校・高校・高等専門学校を対象に、マンガ小冊子『ポン太のネットの大冒険 ～楽しくわかるインターネットのしくみ～』を無償で配布しています。情報通信の普及・振興を図る「情報通信月間」をきっかけに、5月15日(月)から7月31日(月)まで、教材の配布を希望する教育機関から専用Webサイト( <http://マンガで学ぶ.jp/> )などで申し込みを受け付けています(※詳細な申し込み方法は、巻末を参照)。このマンガ冊子は、「情報教育」の副教材として適切であると、教育現場からも高い評価を得ています。



---

■株式会社日本レジストリサービス(JPRS)

<https://jprs.co.jp/>

ドメイン名の登録管理とドメインネームシステム(DNS)の運用を中心としたサービスを行う会社。2000年12月26日設立。JPRSはネットワークの基盤を支える企業として、インターネットの発展に寄与し、人と社会の豊かな未来を築くことに貢献することを企業理念として活動しています。

---

■本件に関するお問い合わせ先

株式会社日本レジストリサービス(JPRS)広報宣伝室

TEL: 03-5215-8451 FAX: 03-5215-8452

E-mail: [press@jprs.co.jp](mailto:press@jprs.co.jp)

<https://jprs.co.jp/>

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-8-1 千代田ファーストビル東館 13階

---

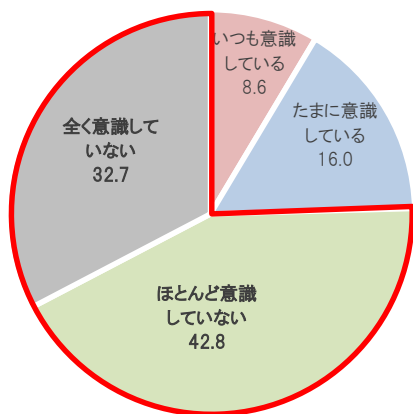
調査結果(詳細)

デジタルネイティブで薄れつつある URL の存在感

《生徒》

Q1.スマートフォンや携帯電話でインターネットを利用する際、URL を意識していますか (単一回答)

→ 「意識しない」 75.5%

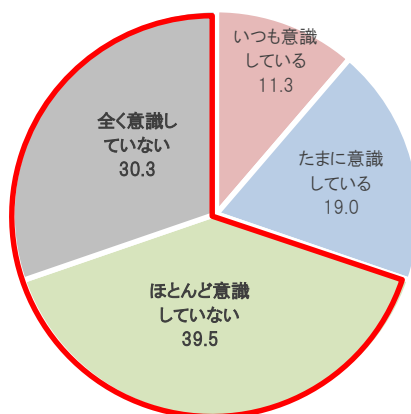


n=269

《生徒》

Q2.デスクトップ・ノートPCでインターネットを利用する際、URL を意識していますか (単一回答)

→ 「意識しない」 69.8%

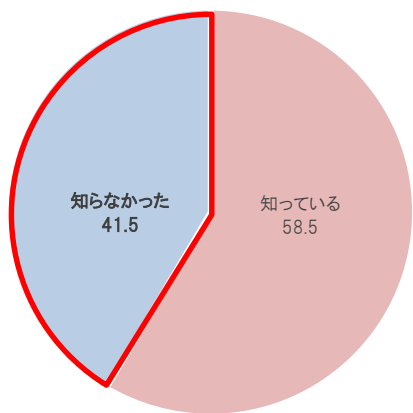


n=195

《生徒》

Q3. URL 内の「http://△△△.jp」の「.jp」部分が日本を意味することを知っていますか (単一回答)

→ 「知らなかった」 41.5%

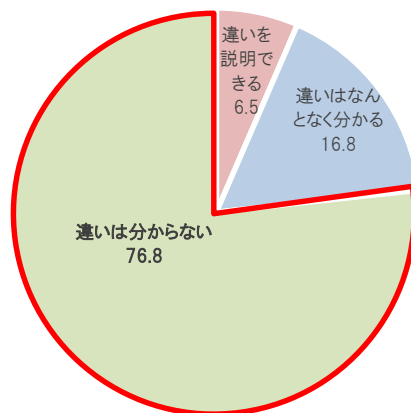


n=400

《生徒》

Q4.URL 内の「http://」と「https://」の違いを知っていますか (単一回答)

→ 「違いがわからない」 76.8%



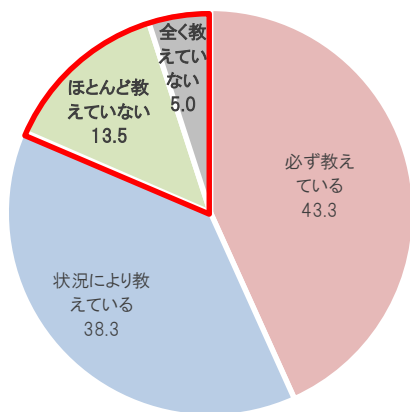
n=400

「インターネットの仕組み」や「ドメイン名」を教えない一定数の教育現場

《教諭》

Q5.「情報教育」の授業では、インターネットの仕組みについて教えていますか（単一回答）

→ 「教えていない」 18.5%

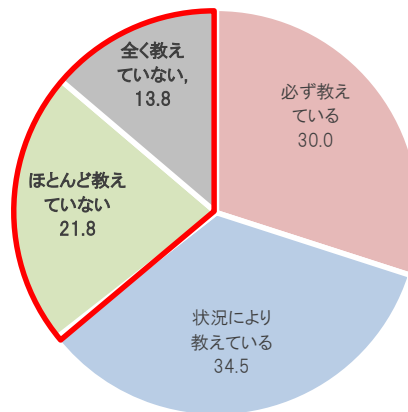


n=400

《教諭》

Q6.「情報教育」の授業では、ドメイン名について教えていますか（単一回答）

→ 「教えていない」 35.6%



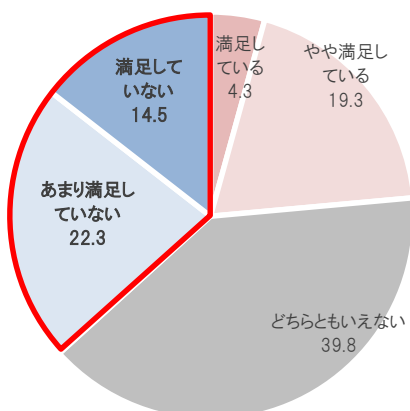
n=400

授業にあたり「教材に満足」はわずか

《教諭》

Q7.「情報教育」の授業を行うにあたり、使用する教材について満足していますか（単一回答）

→ 「満足していない」 36.8%

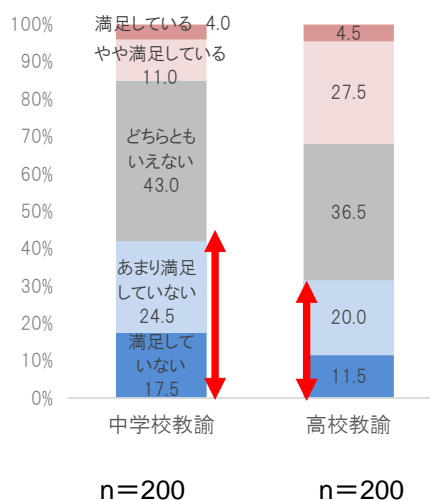


n=400

《教諭》

Q7-2. (Q7)に関して勤務校種別で見た場合の比較（単一回答）

→ 「満足していない」中高で 20.5 ポイント差



n=200

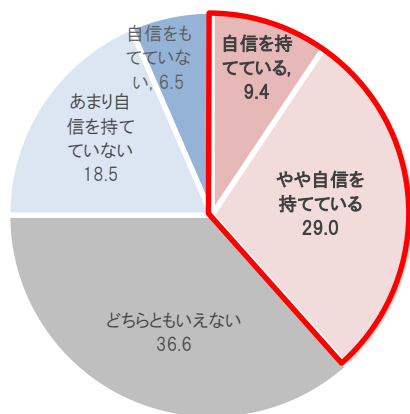
n=200

情報教育の授業に対し、自信がない教諭

《教諭》

Q8.「情報教育」の授業を行うあたり自信を持ってその授業を行えていますか (単一回答)

→ 「自信を持って教えられている」 38.4%

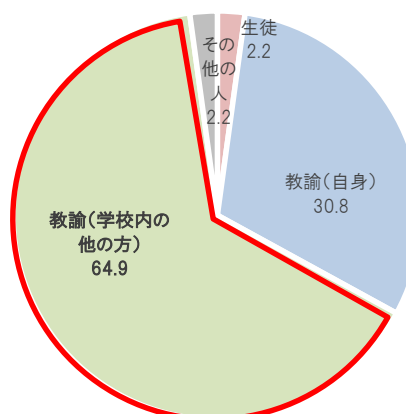


n=276

《教諭》

Q9. 周りで「インターネット」について最も詳しい方はどなたですか (単一回答)

→ 「学内の自分以外の人」 64.9%

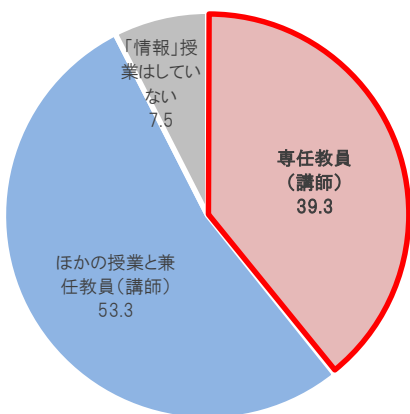


n=276

《教諭》

Q10. 現在、あなた学校で「情報教育」の授業をご担当されている方は誰ですか (単一回答)

→ 「専任教員(講師)」は 39.3%

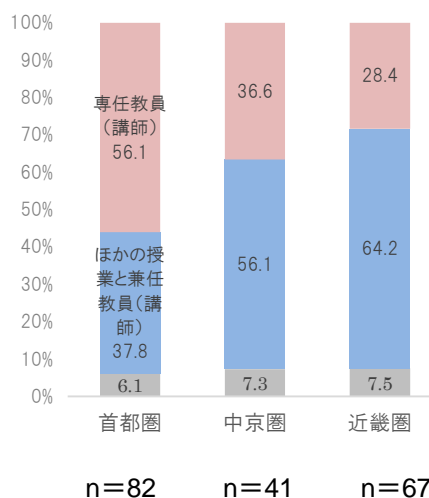


n=400

《教諭》

Q10-2. (Q11)に関して三大都市圏で見ただけの場合の比較 (単一回答)

→ 三大都市圏でも大きな差

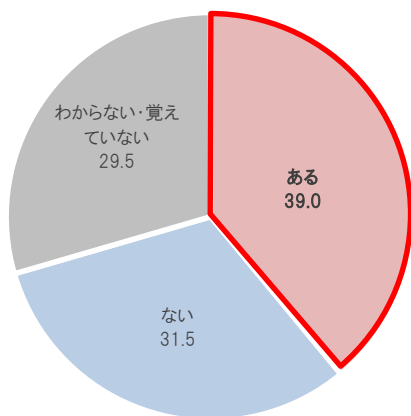


インターネットでの危険の経験ある生徒たち

《生徒》

Q11.「インターネット」を利用して危険だと感じたことがありますか (単一回答)

→ 「危険と感じたことがある」 39.0%

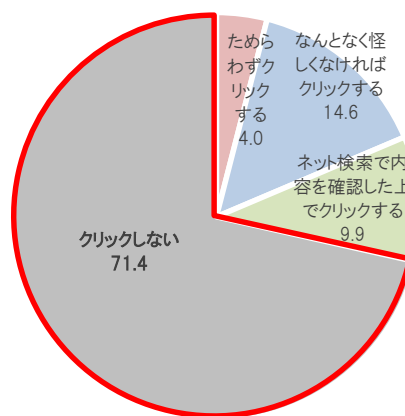


n=400

《生徒》

Q12. SNS を利用している人の中で、知らない人から SNS (LINE や Twitter、Facebook など) で URL のついたメッセージが送られてきた場合、その URL をクリックしますか (単一回答)

→ 「クリックしない」 71.4%



n=323

**募集要項**

<b>募 集 対 象</b>	全国の中学校・高校・高等専門学校などの教育機関	
<b>提 供 冊 子</b>	マンガ小冊子 『ボン太のネットの大冒険 ～楽しくわかるインターネットのしくみ～』	
<b>提 供 方 法</b>	期間中に配布申し込みされたすべての学校・教育機関さまへ、郵送にて冊子をご提供いたします(先着順ではありません)。	
<b>提 供 冊 数</b>	希望冊数を提供 ※ 冊子の提供数は、1校につき上限 400冊までとなります。 ※ 上限冊数内であれば、1学年全体やクラス単位、部活動単位でも構いません。 ※ なお、十分な冊数を用意いたしておりますが、数に限りがあるため ご要望に沿えない場合がございますので、ご容赦ください。	
<b>費 用</b>	提供する冊子、発送費などはすべて当社で負担いたしますので、学校側での費用負担は一切ございません。	
<b>応募締め切り</b>	2017年7月31日(月)	
<b>申し込み方法</b>	下記のいずれかの方法にてお申し込みください。	
	<b>&lt;FAX&gt;</b>	<b>&lt;E-mail&gt;</b>
	JPRS のホームページより所定の応募用紙をダウンロード後、必要事項をご記入いただき、下記の事務局 FAX 番号までお送りください。  【受付 FAX 番号】 03-4570-3176	下記の E-mail アドレスまで、「(A) 学校名」、「(B) 学校住所」、「(C) 担当者名と担当教科」、「(D) 電話番号」、「(E) 希望冊数」、「(F) 使用学年や配布クラス数・用途」をご記載の上、メールにてお送りください。  【受付 E-mail】 manga@jprs.co.jp
	<b>&lt;インターネットでのお申し込み&gt;</b>	
インターネットから下記のホームページにアクセスし、お申し込みフォームに必要事項をご記入の上、お申し込みください。 ※ホームページでは、マンガ小冊子の内容を PDF にてご覧いただけます。  【お申し込みページ URL】 <a href="http://マンガで学ぶ.jp/">http://マンガで学ぶ.jp/</a> <a href="http://mangade.jp/">http://mangade.jp/</a>  ※上記どちらの URL からもお申し込みできます。		